

## 曾我祐典教授 年譜

### 学歴

- 1968 年 3 月 東京外国語大学外国語学部フランス語学科卒業
- 1972 年 6 月 パリ第 3 大学仏語教授法研究学院 IPFE 修了（仏政府給費留学）
- 1975 年 3 月 東京外国語大学大学院修士課程フランス語学専攻修了
- 1991 年 6 月 文学博士学位取得（関西学院大学）

### 職歴

1975. 4～76. 3 関西学院大学文学部助手
1976. 4～79. 3 関西学院大学文学部専任講師
1979. 4～85. 3 関西学院大学文学部助教授
1985. 4～現在 関西学院大学文学部教授
1987. 4～現在 関西学院大学大学院文学研究科前期課程指導教授
1989. 4～現在 関西学院大学大学院文学研究科後期課程指導教授  
〔学外〕
- 1991 年度集中 東北大学大学院文学研究科
2001. 10～02. 9 パリ・エスト大学文学・芸術・コミュニケーション学部客員教授
- 2002 年度集中 東京外国語大学大学院外国語学研究科  
（関西学院における役職）
1979. 4～80. 3 文学部学生副主任
1994. 4～95. 3 文学部学生主任
1997. 4～99. 3 文学部教務主任
2003. 4～05. 3 文学部長・文学研究科委員長
2005. 4～08. 3 大学評議員
2007. 4～10. 3 関西学院評議員

2008. 4～10. 3 大学図書館長

(その他)

1980. 4～82. 3 NHK テレビフランス語講師

1982. 4～88. 3 実用フランス語技能検定試験委員

2001. 4～現在 大阪日仏センター＝アリアンス・フランセーズ理事・評議員

#### おもな所属学会

1973. 4～現在 日本フランス語学会（1993. 4～現在 編集委員，2011 年度  
学会代表）

1973. 4～現在 日本フランス語フランス文学会（2005. 4～09. 3 編集委員）

1975. 4～現在 日本フランス語教育学会（1982. 4～99. 3 理事，2005. 4～現  
在 学術顧問）

## 曾我祐典教授 業績

### 編著書

- 1981 年 3 月 『フランス語のしくみ』, 白水社
- 1985 年 8 月 『フランス語学の諸問題』 (共著), 三修社
- 1992 年 6 月 『フランス語における状況の表現法』, 白水社
- 1995 年 4 月 『フランス語がわかる』, 白水社
- 1998 年 2 月 『フランス語を考える フランス語学の諸問題Ⅱ』 (共著), 三修社
- 2005 年 5 月 『フランス語を探る フランス語学の諸問題Ⅲ』 (共著), 三修社
- 2011 年 5 月 『中級フランス語 つたえる文法』, 白水社
- 2012 年 6 月 『フランス語学の最前線』 (共著), ひつじ書房
- 2013 年 1 月 『フランス語をとらえる フランス語学の諸問題Ⅳ』 (共著), 三修社

### (辞典)

- 1990 年10月 『コンコルド和仏辞典』 (共編), 白水社
- 1994 年 2 月 『新和仏小辞典』 (コラムほか執筆), 白水社
- 2011 年 4 月 『ロベール・クレ仏和辞典』 (共編訳), 駿河台出版社  
(大学用教科書・参考書など)
- 1977 年 4 月 『現代フランス語 初級文法』 (共著), 朝日出版社
- 1986 年 4 月 『フランス語 '86』 (共著), フランス語教授法研究会
1988. 4～91. 4 『コレクション フランス語』 1～4 (共著), 白水社
- 1990 年 3 月 『フランス語 '90』 (共著), 白水社
- 1993 年 3 月 『ことばのしくみ フランス語』, 白水社
- 1997 年 3 月 『使える朝鮮語』 (共著), 白水社
- 1998 年 3 月 『フランス語初級 文のかたち』, 第三書房

- 2008 年 3 月 『フランス語 聞く・話す・読む・書く』（共著），白水社  
 2011 年 3 月 『フランス語 2020』（共著），白水社  
 ほか 10 点

## 学術論文

- 1975 年 1 月 La description des textes et la traduction（修士論文）  
 1975 年12月 “Esquisse d’une méthode comparative”『欧文紀要』24：1-10.  
 1975 年12月 “Les valeurs expressives du participe présent”『年報 フランス研究』9：64-80.  
 1978 年 9 月 “Coordination de propositions en français”『人文論究』28-2：55-75.  
 1980 年 3 月 “Analyse fonctionnelle de la phrase française”『研究論文集』（科学研究費）：28-36.  
 1982 年 3 月 「『現在のこと』を語るフランス語の半過去形・大過去形」『人文論究』31-4：44-58.  
 1983 年 6 月 「フランス語の従節における叙法の選択」『人文論究』33-1：29-42.  
 1984 年 7 月 「フランス語学と新しい教授法」『教育研究所紀要』4，追手門大学：11-16.  
 1985 年 9 月 「フランス語における叙法の選択」『人文論究』35-2：108-123.  
 1985 年12月 「フランス語における語群の係りかたと動詞叙法」『年報 フランス研究』19：87-100.  
 1986 年10月 「フランス語における叙法・構文の選択について」『フランス語フランス文学研究』49，日本フランス語フランス文学会：84-94.  
 1987 年 7 月 「関係辞 après の構文と叙法」『人文論究』37-1：120-131.  
 1987 年12月 「フランス語接続法の規定のしかた」『年報 フランス研究』21：1-18.

- 1988 年11月 「フランス語における補足要素」『人文論究』 38-3 : 147-158.
- 1989 年11月 「フランス語学と新しい文法教育」『関西学院創立百周年文学部記念論文集』 : 141-153.
- 1989 年12月 「フランス語状況表現の記述のために」『年報 フランス研究』 23 : 1-13.
- 1990 年 6 月 「関係辞 *avant* の構文と叙法」『人文論究』 40-1 : 105-119.
- 1990 年 6 月 “*La proposition circonstancielle en français*”, *L'Information grammaticale* 47 : 26-29.
- 1990 年12月 「関係辞 *jusqu'à* の構文と叙法」『年報 フランス研究』 24 : 35-43.
- 1991 年 6 月 「フランス語における状況の表現法の研究」(博士論文)
- 1991 年 6 月 「フランス語における帰結状況の表現」『人文論究』 41-1 : 31-42.
- 1991 年12月 「フランス語における先行状況の表現」『年報 フランス研究』 25 : 35-43.
- 1992 年 6 月 「フランス語の仮定の表現 〈*si Q*〉」『人文論究』 42-1 : 159-170.
- 1992 年12月 「評価・判断の表現 〈*Ps-penser-INF*〉」『年報 フランス研究』 26 : 65-76.
- 1993 年 5 月 「*penser* と接続法節・直説法節」『ふらんばー』 20 : 1-14.
- 1993 年 5 月 「*penser* と構文・動詞叙法の選択」『人文論究』 43-1 : 27-38.
- 1993 年12月 「フランス語動詞形態の選択-教授法の考えかた-」『年報 フランス研究』 27 : 79-91.
- 1994 年 5 月 「フランス語運用能力を養う文法教育」『人文論究』 44-1 : 81-92.
- 1994 年10月 「〈*penser*+不定法表現〉の用法」『関西学院大学文学部 60 周年記念論集』 : 231-243.
- 1995 年 3 月 「朝鮮語運用能力を養成する教授プログラムの研究」『総研論

- 集』 15 : 4-14.
- 1995 年 3 月 「外国語教育と待遇表現－朝鮮語・フランス語－」『総研論集』 15 : 15-30.
- 1995 年 5 月 「フランス語待遇表現使用の事例」『人文論究』 45-1 : 88-98.
- 1995 年 6 月 「判断の表現 〈penser + INF/que IND〉」『フランス語学研究』 29, 日本フランス語学会 : 1-11.
- 1996 年 5 月 「動詞 voir の意味と構文」『人文論究』 46-1 : 116-127.
- 1996 年12月 「モダリティ・マーカー je crois, il me semble の用法」『年報 フランス研究』 30 : 331-342.
- 1997 年 3 月 「フランス語のモダリティ表現」『文体論研究』 42, 日本文体論学会 : 28-38.
- 1997 年 5 月 「フランス語の possible, probable, certain の意味と構文」『人文論究』 47-1 : 138-149.
- 1997 年12月 「〈N 1 s'y connaître en N 2〉の用法」『年報 フランス研究』 31 : 53-65.
- 1998 年 5 月 「フランス語辞書の可能性」『人文論究』 48-1 : 69-80.
- 1998 年12月 「『思い描く』を表すフランス語の〈se 動詞〉」『年報 フランス研究』 32 : 55-67.
- 1999 年 5 月 「〈se douter〉の機能」『人文論究』 49-1 : 21-33.
- 2000 年 3 月 「コミュニケーション能力と『文法』」『言語と文化』 3 : 123-138.
- 2000 年 5 月 「douter, imaginer の否定文発話」『人文論究』 50-1 : 32-43.
- 2000 年12月 「動詞 intéresser の機能」『関西学院大学創立 111 周年記念論文集』 : 209-221.
- 2001 年 5 月 「動詞 pouvoir の基本的な働き」『人文論究』 51-1 : 82-93.
- 2001 年12月 「〈se voir Inf〉使用の制約」『年報 フランス研究』 35 : 137-149.
- 2002 年 5 月 「日仏語コミュニケーションにおける人間関係の配慮」『人文論

- 究』 52-1 : 97-108.
- 2002 年12月 「フランス語認知動詞の『se 構文』」『年報 フランス研究』 36 : 53-64.
- 2003 年 5 月 “Pour une meilleure didactique des verbes cognitifs en construction pronominale”『フランス語教育』 31, 日本フランス語教育学会 : 51-60.
- 2003 年 5 月 「フランス語における発話者の主観性－認知・伝達動詞をめぐって－」『人文論究』 53-1 : 105-116.
- 2003 年12月 「時間関係辞 dans」『年報 フランス研究』 37 : 93-104.
- 2004 年 5 月 “Les composantes socioculturelles de la communication en français”『人文論究』 54-1 : 62-74.
- 2005 年 5 月 「非人称構文〈il + être + X〉の使用条件」『人文論究』 55-1 : 62-74.
- 2005 年12月 「時間関係辞 depuis の機能」『年報 フランス研究』 39 : 89-101.
- 2006 年 5 月 「depuis が導く時況節における現在形の使用」『人文論究』 56-1 : 59-73.
- 2007 年 5 月 「フランス語における『語調緩和の半過去』」『人文論究』 57-1 : 71-86.
- 2008 年 2 月 「〈P depuis que Q〉の動詞時称」『人文論究』 57-4 : 45-59.
- 2009 年 5 月 「知覚動詞 entendre の不定法構文」『人文論究』 59-1 : 120-134.
- 2010 年 5 月 「フランス語表現 c'est allé と ça a été」『人文論究』 60-1 : 144-161.
- 2010 年 6 月 「動詞 entendre の節構文の語用論的機能」『フランス語学研究』 44, 日本フランス語学会 : 1-14.
- 2011 年 5 月 「欲求・願望を伝えるフランス語表現〈j'aimerais P〉」『人文論究』 61-1 : 133-151.

2012 年 5 月 「フランス語における半過去の si 節の用法」『人文論究』62-1 :  
171-190.

口頭発表 学会発表：約 20 件，その他：約 30 件

記事・書評 フランス語学：約 20 編，外国語教育ほか：約 20 編